

南半球便り（その 46）：スポーツ交流

12 月 2 日

共にスポーツ大国である日豪両国のつながりは、多岐にわたります。今回は、そうした一面をご紹介します。



大使公邸で開催した 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会記念レセプションにて

1. 「朋，シドニーより来たる。」

主として在留邦人向けのコミュニティ誌「日豪プレス」チェア・パーソンの作野善教ご夫妻と、サッカー教室 MATE FC 代表の田代有三ご夫妻が、シドニーから訪ねてきてくれました。



田代有三ご夫妻，作野善教ご夫妻と

田代有三さんは元サッカー日本代表。私が水戸で警察官生活をしていた頃，同じ茨城県内の鹿島アントラーズのストライカーとして大活躍。いまでもその下半身は，「ハンパない」です（笑）。田代選手を包んだ大歓声がスタジアムを越えて鹿島灘まで響き渡ったのが，昨日のこのようです。

日豪のサッカーの共通点と違い，サッカーを通じてどうやって日本の存在感を向上させ，日豪関係を盛り立てていくか，といった話題について，夜の更けるのも忘れて語り合いました。

2. ワールドカップ日豪戦，なでしこジャパンの訪豪に向けて

翌日はシドニーに移動し，女子サッカーの豪米戦を観戦。豪州「マチルダ」としては史上最大の3万6千強の観客から熱い声援を得たものの，残念ながら強敵米国に0-3で敗れてしまいました。

実り多かったのは，豪州サッカー協会会長のクリス・コウ氏とご挨拶できたことです。サッカーファンには気になるところですが，3月24日には，男子ワールドカップ予選の日豪戦が豪州で開催予定。現在，共に勝ち点で1位のサウジアラビアを追う展開なので，互いに非常に大事な一戦になります。



豪州サッカー協会会長のクリス・コウ氏と

日本大使館・総領事館として日豪双方のサッカー関係者を招いてのレセプションの開催等，できる限りの支援を行っていきたいと考えています。先方も，大歓迎。今後具体的に相談していくこととなりました。

また，試合会場では，元女子日本代表で MATE FC の田中景子さんとも歓談できました。「なでしこ」の豪州来訪を得て，「マチルダ」と親善試合を行うことなど，夢はひろがりました。



試合会場で（後列右端が田代有三さん，前列右端が田中景子さん）

3. 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会記念レセプション

11 月 30 日には，東京オリンピック，パラリンピックに参加した豪州の選手，関係者を大使公邸にお招きし，レセプションを開催しました。

思い返せば，世界から参加した 206 の国・地域の選手団のうち，最も早く日本入りした

のが、豪州の女子ソフトボールチーム「オージー・スピリット」でした。厳しい対策を講じてコロナ禍の被害を最小限に抑えていた当時の豪州から、問題が遙かに深刻だった日本に危険を冒して真っ先に赴き、キャンプを張ったのです。東京大会の成功に寄与しようとするその心意気に、私は打たれました。

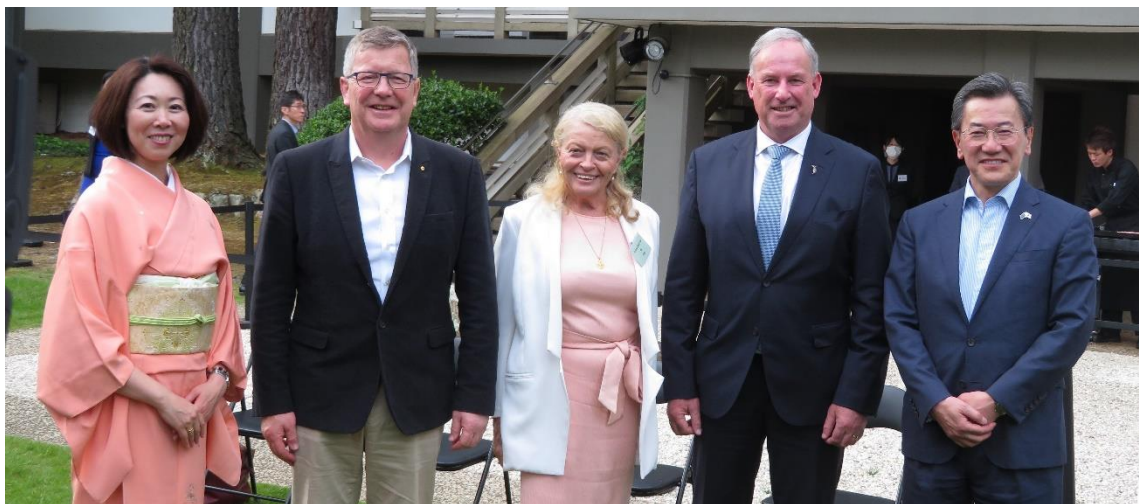
来日後、群馬県太田市で不自由な合宿生活を送っていた「オージー・スピリット」に対し、豪州人お気に入りのビスケット「ティムタム」を差し入れました。もともと、日本ならではの「おもてなし」を国際社会にアピールして今回の大会を招致した我が国。にもかかわらず、来日した選手を待っていたのは、選手村での閉鎖的生活。競技終了後は日本を見聞することさえままならず、離日を余儀なくされたのです。

だからこそ、このレセプションを開催し、ささやかながらも日本の「おもてなし」を味わっていただくこととした次第です。

4. 好意的反響

レセプションには、コルベック・スポーツ大臣、キャロル豪州オリンピック委員会 CEO、アンダーソン豪州パラリンピック委員会 CEO もお越しになりました。パラリンピック陸上 400 メートルで金メダルを獲得したターナー選手からは、持参した金メダルを見せて貰いました。そのずっしりとした重みに感動しました。

【私の[スピーチ](#)、[TBSでの報道](#)はこちらをご覧ください】



キャロル CEO、アンダーソン CEO、コルベック・スポーツ大臣と

晴海の選手村での餃子が好評であったと聞いた小形料理人は、冷凍食品でない「本物の餃子」を味わって貰いたいとして、数日かけて 370 個の餃子を手作り。鉄板で作ってたてのお好み焼きと合わせ、飛ぶようになりました。アサヒビールがアスリートの人気を博したことも、予想どおりでした。



餃子



お好み焼き

何よりも嬉しかったのは、出席した豪州人の幾多もの人から、「日本だからこそ、できた五輪」、「日本人、特に笑顔を絶やさないボランティアがあればこそ、成功した。」との評価をうかがえたことです。苦勞して開催にこぎ着けた東京大会。豪州では、これ程までに高く評価されているのです。



オリンピック（ボート）と



パラリンピアン、パラリンピック委員会関係者と

5. 続くスポーツ交流

来年1月には、恒例の豪州オープンテニスが開催されます。また、3月には、前述のサッカー日豪戦が行われます。

互いにスポーツ大国である日豪。フェアプレーの精神で交流を深め、両国間の繋がりがいっそう強固になっていくよう、期待しています。

山上信吾